

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4590100212
法人名	有限会社 美大
事業所名	グループホーム大河
所在地	宮崎市古城町長田5911 (電話)0985-50-1435

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 6 月 24 日

## 【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 31 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.3 人

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	3 名	要介護2	3 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	83.5 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	早稲田内科神経科医院・巴外科内科・いちほら医院・岡野歯科医院・中山歯科
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは民家と田園の中にあり、ホームの菜園で栽培された新鮮な無農薬野菜が毎食卓に出される。職員は、利用者へ「ちょっと待ってて」と言わないように心がけ、利用者の立場に立って、望まれる時に望まれるケアが提供できるよう日々努めている。地域に根ざした明るい楽しいホームを目指して、ホーム建設当初から地域の理解を得る働きかけを行い、現在は地域の神楽に招待されたり、朝夕学童達とのふれあいもあり、地域に開かれたホームである。利用者は「いい顔しちよるね」と言われる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である「歩行困難な利用者への外出支援」については、日常ホーム近辺を車椅子を使って外出の機会を増やし、時には車でドライブをするなど改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	先ず全職員が自己評価に取り組むことで、日常のケアの振り返りを行い、管理者と共に確認し、運営者・管理者・全職員が共有し、新たなケアの取り組みにつなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1回開催され、会議で出た意見を基に日々のケアを見直し、サービスの向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見や苦情等出しやすいように、受け止める窓口を幅広く設けており、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの建設時から地域への働きかけを行い、自治会に加入し、日常生活においてボランティアの受け入れ、学童達とのふれあい、民生委員の視察研修を受け入れたり、作物の交換、避難訓練時に近隣の協力が得られるなど、様々に地域との連携交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営方針で、利用者の尊厳を尊重し、利用者が住み慣れた地域に根ざした明るいホームで暮らせるよう、支援していくことを謳っている。		「地域密着型サービス」としての理念を、家族や地域の人々にわかりやすく伝え、地域の中のホームとしての可能性が大いに広がることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践として、指示ではなく利用者の立場に立っての介護に日々取り組んでおり、月1回は全職員で振り返りをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設時から地域へ働きかけの努力により、自治会に加入し、地区の神楽に招待をうけて参加し、朝夕の散歩時の挨拶、作物の交換、学童・園児・保護者等との交流、民生委員の視察研修の受け入れなど多様な交流である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	先ず職員が各々自己評価に取り組むことで、日々のケアの振り返り、気づきをしている。管理者は職員の教育の機会とし、運営者と共に全職員で新たなケアの取り組みにつなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者と家族、自治会長、老人クラブ会長、民生児童委員、第三者委員、市行政関係者等のメンバーで3か月に1回開催されている。出された意見等は運営に反映され、年2回開催される家族会でも報告されている。		2か月に1回の開催になり、運営推進会議をさらに充実させてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者のなじみの関係から、市担当部署との連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時やケアプラン更新時に、また「大河通信」等で日々の様子や健康状態、職員の異動等を家族に伝えている。個人預かり金については出納簿で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情等の受け窓口をホームの管理者や市介護長寿課の他に、民生委員・老人クラブ会長・第三者委員等幅広く設けており、今年4月からは介護相談員も受け入れている。職員は家族との交換ノートも利用しながら運営者へつないでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、同系列の施設間である。同系列施設とは毎月双方の職員および利用者が交流しているので、職員の異動によるダメージは少ない。運営者は働きやすい環境づくりで離職防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、パートを含めた全職員を年間計画で段階に応じた事業所内外の研修を受講できる体制をつくっている。職員は受講後に全職員と共有している。運営者は、さらに職員を奮起させ各種の資格取得を促すことで、職員が利用者をケアするやりがいにつなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。職員と利用者は他のグループホームやデイケア等へ親睦とサービスのあり方を学び合う相互訪問をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族がホームを見学し、納得してもらったの利用開始である。利用者が新しい環境になじめるように、担当職員を決めてはいるが、全職員がじっくりゆっくりに対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者それぞれの得意分野でその人らしさが出せるよう支えている。例えば、調理の意欲を失っておられた利用者がホームで生活されるようになり、今では昼食の調理に張りきられている。また職員は、利用者から生活の智慧を学んだりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、年若いでも社会に役立ちたいなどの一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合、例えば喫煙時の表情・本数・時間などから、どのような思いなのか利用者の立場で行動理解に努め、本人が望むケアへとつないでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時等で受けとめた要望を含めて、利用者の立場で担当職員とケアマネで介護計画を作成し、全職員で検討を重ねている。介護計画を家族等に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の作成を3か月に1回行い、家族の意向などを確認し同意を得ている。計画の見直しにより、車椅子から歩行器使用となり、さらに杖歩行になられた利用者もいる。		毎月の会議で補足修正し見直しの取り組みが行われているので、その取り組みを活かして、できれば毎月、計画の見直しをされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等へ各職員の専門性を活かした助言や支援、また要望により訪問看護も行っている。遠方の家族等からホームに泊りたいとの要望に応えるための宿泊室を備えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により、内科や歯科等かかりつけ医師の往診や協力医療機関にも相談できる良好な体制が出来ており、利用者や家族だけでなく、職員も安心して介護が行えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、ホーム利用開始時に家族等の合意を得ている。実際にホームで看取りを行っており、今後も要請があれば協力医療機関と連携しながら柔軟に対応していく方針を全職員で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけや態度にも配慮している。例えば、排泄の声かけも他の利用者に分からないように、さりげなく行っている。受診等外部への情報提供も最小限にしている。運営者は職員に接遇教育を徹底して行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの「今日はこういうことをしよう」との要望を優先に、ひとり一人のその日を過ごせるようにしている。昼食はベランダで弁当を食べたり、ひとり一人好きな花を見れるように散歩するなど、状態に応じて柔軟に支援している。家族からは「ホームの生活で生き生きとしてきた」などの声もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園の新鮮な野菜を使い、職員は調理・片付けなど利用者の力を活かしながら一緒に行っている。職員が炊いた炊き込みご飯を「ちと、やえー(軟い)」と利用者は和やかに食べている。職員も同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に応じた脱衣場の温度管理に配慮し、利用者の体調、入り方の好みに合わせて、入浴、シャワー浴とそれぞれ楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業経験者には栽培方法を、裁縫の経験者には縫い物、調理経験者には食材の扱い方等、利用者の生活歴を活かせるような支援をしている。職員は野菜の調理法や保存方法など教えてもらった喜びを利用者に伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常は車椅子の利用者も含めホーム周辺の散歩が多いが、時には100円ショップや福祉センターの喫茶コーナーに出かけたりしている。家族との外出も多いが、年に1回は全利用者で家族で外出し食事会を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践しており、居室に鍵はなく、玄関も朝6時から21時まで鍵をかけていない。国道も近いので玄関にはセンサーをつけている。帰宅願望が生じホームの外に出られた時は、職員が同伴し散歩するようにしている。地域の見守り協力がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の通報訓練、年1回の消防署や消防団、近隣の協力を得て、利用者と共に避難訓練を行っている。ホーム真向かいの方が協力員である。手作りの滑車付移動具、AED、熱探知機等の設置あり。各居室から即戸外へ出れる。ベランダに3か所の出口がある。喫煙場所は指定され職員が付き添っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者によってはきざみ、とろみ、ミキサー食などきめ細やかに対応している。食事量、水分量、排泄、体重等のチェックを職員は共有している。協力医療機関の管理栄養士から年1回は助言をもらっている。包丁や洗剤、薬剤等は安全に管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の音や光はさわやかで臭気はない。置物や装飾は季節に合ったもので、利用者が折られた紙細工もあり、朝採れの菜園の野菜も飾ってある。フロアの皆と対面する調理台である。居室の南側のベランダは時には昼食会場に、談話、憩、菜園や四季折々の花を眺める場所などと多様である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室南側にベランダがあり、ホームの菜園に面し明るい。利用者のなじみの物が持ち込まれ、その人らしさの居室となっている。		